



## サーバーの管理

- [Intersight Infrastructure Service ライセンス \(1 ページ\)](#)
- [サーバー サマリの表示 \(2 ページ\)](#)
- [インベントリの表示 \(4 ページ\)](#)
- [センサー ステータスの表示 \(11 ページ\)](#)
- [タイム ゾーンの構成 \(11 ページ\)](#)
- [サーバーのブート \(12 ページ\)](#)
- [BIOS トークン \(15 ページ\)](#)
- [電力ポリシーの設定 \(36 ページ\)](#)

## Intersight Infrastructure Service ライセンス

Cisco Intersight は、シスコとサードパーティの IT インフラストラクチャ向けの分析機能が組み込まれた SaaS 方式の管理プラットフォームです。Intersight Managed Mode (IMM) は、Redfish ベースの標準モデルを通じて UCS ファブリックインターコネクトシステムを管理する新しいアーキテクチャです。Intersight マネージドモードは、UCS システムの機能と Intersight のクラウドベースの柔軟性を統合し、スタンドアロンおよびファブリックインターコネクト接続システムの管理エクスペリエンスを統合します。

Cisco ベースボード管理コントローラ 2.0 REST API ガイド、リリース 2.0 デバイス コネクタが Cisco Intersight サービスへの接続を検出しない場合、次の警告を表示します。

デバイス コネクタは、Cisco Intersight に対しての接続を検出できません。設定を確認し、サーバーが Intersight インフラストラクチャ サービス ライセンスに準拠して Intersight で要求されていることを確認してください。( 1/5 )

次をクリックできます。[OK] をクリックします 次に移動します デバイス コネクタ 設定を構成するか、[キャンセル (Cancel) ] をクリックして続行します。

警告とは別に、Cisco ベースボード管理コントローラ 2.0 REST API ガイド、リリース 2.0 画面の上部に次の静的リボンも表示します：

注：このサーバーには、Intersight インフラストラクチャ サービス ライセンス ライセンスが必要です。詳しくはこちら

詳細をクリックすると、Intersight ヘルプ センターから詳細情報を取得できます。



(注) このメッセージは、デバイス コネクタが構成されている場合は表示されません。デバイス コネクタを一度構成し、後で無効にすると、メッセージが再度表示されます。

## サーバー サマリの表示

### 手順

ステップ 1 [Navigation] ペインから、**ダッシュボード**をクリックします。

ステップ 2 通常の **システムの情報**次のプロパティを表示することができます：

表 1: サーバプロパティ

名前	説明
製品名 (Product Name) field	このフィールドには、サーバの製品名が表示されます。
シリアル番号 (Serial Number) field	このフィールドには、サーバーに割り当てられた一意のシリアル番号が含まれます。
UUID field	このフィールドには、サーバの UUID が含まれています。
BIOS Version field	このフィールドには、実行中の BIOS バージョンが表示されます。
説明 フィールド	このフィールドには、システムの説明が表示されます。
Asset Tag field	このフィールドには、サーバーのアセットタグが含まれています。

表 2: Cisco BMC 情報

名前	説明
ホストネーム (Hostname) field	このフィールドには、サーバのホスト名が表示されます。
IPアドレス (IP Address) field	このフィールドには、サーバーのIPアドレスが表示されます。

名前	説明
MAC アドレス field	このフィールドは、サーバの MAC アドレスを示します。
ファームウェアバージョン (Firmware Version) field	このフィールドは、サーバのファームウェアバージョンを示します。
[現在の時刻 (ユニバーサル) (Current Time (Universal)) ] field	このフィールドには、現在の万国標準時が表示されます。
Timezone field	このフィールドは、サーバのタイムゾーン設定を示します。
タイムゾーンを選択 リンク	タイムゾーンを変更できます。詳細は、 <a href="#">タイムゾーンの構成 (11 ページ)</a> 。

ステップ 3 [アラート条件 (Alert Conditions) ] ステータス情報次のプロパティを表示することができます :

表 3: シャーシステータス

オプション	説明
Power Status	シャーシの電源ステータスを示します。
完了後のステータス	シャーシの完了後のステータスを示します。
サーバ全体のステータス	全体のサーバのステータスを表示します。
温度	温度ステータスを示します。
DIMM全体のステータス	DIMM ステータスを表示します。
電源モジュール	電源装置のステータスを表示します。
ファン	ファン ステータスを示します。
ロケータ LED	ロケータ LED のステータスを表示します。
ストレージ全体のステータス	ストレージステータスが表示されます。

表 4: インベントリと LED

名前	説明
システム識別LED field	このフィールドには、システム識別LEDのステータスが表示されます。このLEDは、システムを物理的に識別するためにオンまたはオフに切り替えることができます。

## インベントリの表示

### 手順

ステップ 1 [Navigation] ペインから、[システム] > [インベントリ] をクリックします。

ステップ 2 [システム (System)] タブで、次のプロパティを表示できます。

表 5: システム

名前	説明
[名前 (Name)] 列	サーバのモデル名。
説明 列	サーバモデルの簡単な説明。
[インジケータ LED (Indicator LED)] 列	各システムの識別LEDがオンかオフかを示します。
[製造業者 (Manufacturer)] 列	システムの製造業者を表示します。
[電源状態 (Power State)] 列	当該システムの現在の電力ステータスを表示します。
[シリアル番号 (Serial Number)] 列	サーバのシリアル番号。
[製品番号 (Part Number)] 列	サーバの部品番号。
[システムタイプ (System type)] 列	システムのタイプを示します。
[アセットタグ (Asset tag)] 列	システムのアセットタグを表示します。
[BIOSバージョン (BIOS Version)] 列	サーバで実行されている BIOS のバージョン。
[状態 (State)] 列	システムの現在の状態を示します。

ステップ 3 [プロセッサ (Processor)] タブで、次のプロパティを表示できます。

表 6: プロセッサ

名前	説明
[ID] コラム	各プロセッサ エントリの一意の識別子を表示します。
[製造業者 (Manufacturer) ] 列	プロセッサの製造元が表示されます。
[モデル (Model) ] 列	プロセッサのモデルを表示します。
[プロセッサ アーキテクチャ (Processor architecture) ] 列	プロセッサのアーキテクチャを表示します。
[プロセッサ タイプ (Processor type) ] 列	プロセッサのタイプを示します。
[製品番号 (Part number) ] 列	プロセッサの部品番号を表示します。
[ヘルス (Health) ] 列	プロセッサの現在の正常性ステータスを示します。

ステップ 4 [メモリ コントローラ (Memory Controller) ] タブで、次のプロパティを表示できます。

表 7: メモリコントローラ

名前	説明
[ID] 列	メモリ コントローラの固有識別子。
[名前 (Name) ] 列	メモリ コントローラの名前。
[容量 (MiB) (Capacity MiB) ] 列	メモリの合計容量 (MiB 単位) 。
[製造業者 (Manufacturer) ] 列	メモリ モジュールの製造元。
[SerialNumber] 列	メモリ モジュールのシリアル番号。
[製品番号 (Part number) ] 列	メモリ モジュールの部品番号。
[スペア部品番号 (Spare Part Number) ] 列	メモリ モジュールのスペア部品番号。
[ベースモジュールタイプ (Base module type) ] 列	基本メモリ モジュールのタイプ。
[バス幅 (ビット) ] 列	メモリのバス幅 (ビット単位) 。
[データ幅 (ビット) ] 列	メモリのデータ幅 (ビット単位) 。
[ヘルス (Health) ] 列	メモリ モジュールのヘルス ステータス。
[状態 (State) ] 列	IO モジュールの動作状態
[動作速度 (MHz) (OperatingSpeed Mhz) ] 列	メモリの動作速度 (MHz) 。

名前	説明
[メモリタイプ (Memory Type) ]列	メモリ モジュールのタイプ。
[許可される速度 (MHz) (AllowedSpeeds MHz) ]列	サポートされる速度範囲 (MHz) 。
[サービス ラベル (Service Label) ]列	ID のサービス ラベル

ステップ 5 [BaseBoard] タブで、次のプロパティを表示できます。

表 8: ベース ボード : BaseBoard 情報

名前	説明
[名前 (Name) ]列	ベース ボードの名前。
[モデル (Model) ]列	ベース ボードのモデル番号。
[状態 (State) ]列	ベース ボードの動作状態。
[電源状態 (Power State) ]列	ベース ボードの現在の電源状態。
[アセット タグ (Asset Tag) ]列	ベース ボードの識別に使用されるアセット タグ。
[製造業者 (Manufacturer) ]列	ベース ボードの製造業者。
[製品番号 (Part Number) ]列	ベース ボードの部品番号。
[シリアル番号 (Serial Number) ]列	ベース ボードのシリアル番号。

表 9: ベース ボード : ネットワーク インターフェイス情報

名前	説明
Id 列	ネットワーク インターフェイスの一意的識別子。
[MAC アドレス (MAC Address) ]列	ネットワーク インターフェイスに割り当てられた一意の Media Access Control (MAC) アドレス。
[インターフェイスが有効 (Interface Enabled) ]列	ネットワーク インターフェイスが有効になっているかどうかを示します。
[HostName] 列	ネットワーク インターフェイスに関連付けられているホスト名。
[状態 (State) ]列	ネットワーク インターフェイスの現在の動作状態。

表 10: ベースボード: IPv6 アドレス情報

名前	説明
[Id] 列	IPv6 アドレスエントリの一意の識別子。
[アドレス (Address)] 列	ネットワーク インターフェイスに割り当てられている IPv6 アドレス。
[PrefixLength] 列	IPv6 アドレスのサブネットプレフィクス長。
[AddressOrigin] 列	スタティックやダイナミック割り当てなど、IPv6 アドレスの送信元。

ステップ 6 [電力 (Power)] タブで、次のプロパティを表示できます。

表 11: 電力

名前	説明
[名前 (Name)] 列	サーバ電源コンポーネントの名前。
[製造業者 (Manufacturer)] 列	電源コンポーネントの製造元。
[モデル (Model)] 列	電源コンポーネントのモデル番号
シリアル番号 列	電源コンポーネントのシリアル番号。
[製品番号 (Part Number)] 列	電源コンポーネントの部品番号。
[ヘルス (Health)] column	電源コンポーネントのヘルス ステータス。
[状態 (State)] 列	電源コンポーネントの動作状態。

ステップ 7 [温度 (Thermal)] タブで、次のプロパティを表示できます。

表 12: 温度 - ファン情報

名前	説明
[名前 (Name)] 列	コンポーネントの名前。
ヘルス (Health) 列	ファンの正常性ステータス。
[状態 (State)] 列	ファンの動作状態を確認します。
[ReadingRPM] 列	ファンの現在の速度 (RPM)。
[下限警告 (Lower warning)] 列	ファンの速度がこの値を下回った場合に警告をトリガする下限しきい値。

名前	説明
[下限境界 (Lower critical) ] 列	ファン速度がこの値を下回った場合にクリティカルアラートをトリガする下限しきい値。

表 13: 温度 : 温度情報

名前	説明
[名前 (Name) ] column	温度センサーまたはモニター対象コンポーネントの名前。
[ヘルス (Health) ] 列	温度センサーの正常性ステータス。
[状態 (State) ] 列	温度センサーの動作状態。
[測定中 (Reading) ] 列	現在の温度 (摂氏) 。
[上限警告 (Upper warning) ] 列	温度がこの値を超えたときに警告をトリガする上限しきい値。
[上限境界 (Upper critical) ] 列	温度がこの値を超えたときに、クリティカルアラートをトリガする上限しきい値。
[下限境界 (Lower critical) ] 列	温度がこの値を下回った場合にクリティカルアラートをトリガする下限しきい値。
[下限警告 (Lower warning) ] 列	温度がこの値を下回った場合に警告をトリガする下限しきい値。

ステップ 8 [PCIe デバイス (PCIe Devices) ] タブで、次のプロパティを表示できます。

表 14: PCIe デバイス情報

名前	説明
[Id] 列	PCIe デバイスの固有識別子。
[DeviceClass] 列	PCIe デバイスのクラス。
[FirmwareVersion] column	PCIe デバイスにインストールされたファームウェアイメージのバージョン。
[DeviceId] column	PCIe デバイスの識別子。
[SubDeviceId] 列	PCIe デバイスのサブデバイスの識別子。
[VendorId] 列	PCIe デバイスのベンダー。
[SubVendorId] 列	PCIe デバイスのサブベンダーの識別子。

名前	説明
[状態 (State) ] 列	PCIe デバイスの動作状態。

ステップ 9 [ストレージ (Storage) ] タブで、次のプロパティを表示できます。

表 15: ストレージコントローラ情報

名前	説明
[MemberId] column	ストレージ FlexUtil コントローラの識別子。
[名前 (Name) ] 列	ストレージコントローラの名前。
[シリアル番号 (Serial Number) ] 列	ストレージコントローラのシリアル番号。
[モデル (Model) ] 列	ストレージコントローラのモデル
[FirmwareVersion] 列	ストレージコントローラのファームウェアバージョン
速度 (Gbs) 列	ストレージコントローラの動作速度 (Gbps) 。
[状態 (State) ] 列	ストレージコントローラの動作可能性状態。

ステップ 10 [ネットワーク アダプタ (Network adapters) ] タブで、次のプロパティを表示できます。

表 16: ネットワーク アダプタ

列	説明
[Id] 列	ネットワーク アダプタの一意的識別子。
[ヘルス (Health) ] 列	ネットワーク アダプタの正常性ステータス。
アダプタ情報	
[名前 (Name) ] フィールド	ネットワーク アダプタの名前。
[ベンダー (Vendor) ] フィールド	ネットワーク アダプタのベンダー。
[シリアル番号 (Serial number) ] field	ネットワーク アダプタのシリアル番号。
[製品番号 (Part number) ] フィールド	ネットワーク アダプタの部品番号。
[製造業者 (Manufacturer) ] フィールド	ネットワーク アダプタの製造元。
[モデル (Model) ] フィールド	ネットワーク アダプタのモデル。
[ファームウェアのバージョン (Firmware version) ] フィールド	アダプタのファームウェアバージョン

列	説明
[ステータス (状態) ] フィールド	ネットワーク アダプタの動作状態。
ポート情報	
[ポート (Port) ] フィールド	ネットワーク ポートの識別子。
[ポート プロトコル (Port protocol) ] フィールド	ネットワーク ポートでサポートされているプロトコル。
[リンク ステータス (Link status) ] フィールド	ポートの現在のリンク ステータス。
[リンク速度 (Gbps) (Link speed Gbps) ] フィールド	ネットワーク リンクの速度 (Gbps 単位で測定) 。
[MAC アドレス (MAC address) ] フィールド	ポートのメディアアクセスコントロール (MAC) アドレス。

ステップ 11 [GPU] タブで、次のプロパティを表示できます。

表 17: GPU 情報

名前	説明
[Id] 列	GPU の固有識別子
[製造業者 (Manufacturer) ] column	GPU の製造元の名前。
ProcessorType 列	GPU で使用されるプロセッサのタイプ。
[シリアル番号 (Serial Number) ] 列	GPU の固有のシリアル番号。
[製品番号 (Part Number) ] 列	製造業者によって GPU に割り当てられた部品番号。
[モデル (Model) ] 列	GPU のモデル名または番号。
[UUID] 列	GPU の汎用一意識別子 (UUID) 。
[バージョン (Version) ] 列	GPU ハードウェアまたはファームウェアのバージョン。
[ヘルス (Health) ] 列	GPU の正常性ステータス。
[状態 (State) ] 列	GPU の動作状態。

ステップ 12

## センサー ステータスの表示

### 手順

ステップ1 [Navigation] ペインから、[システム]>[センサー]をクリックします。

ステップ2 次のプロパティを表示することができます：

表 18: センサー

名前	説明
[名前 (Name) ] column	センサーによってモニタされているコンポーネントの名前。
状態 column	モニタされているコンポーネントの動作状態。
ステータス column	モニタされているコンポーネントの全体的な正常性。
下限境界 column	クリティカルアラートをトリガするコンポーネントの下限しきい値。
下限警告 column	警告をトリガするコンポーネントの下限しきい値。
現在の値 column	コンポーネントの現在の測定値。
上限警告 column	警告をトリガするコンポーネントの上限しきい値。
上限境界 column	クリティカルアラートをトリガするコンポーネントの上限しきい値。

## タイム ゾーンの構成

### 手順

ステップ1 [Navigation] ペインから、ダッシュボードをクリックします。

ステップ2 通常の Cisco BMC 情報の場合、タイムゾーンを選択。

タイムゾーンを選択 ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ3** 次に **タイムゾーンを選択** ダイアログボックスで、目的のタイムゾーンを **Timezone** ドロップダウンリスト。

**ステップ4** クリックして **問い合わせ**。

## サーバーのブート

オプション2は、Cisco BMC 2.0使用可能なブートデバイスタイプからサーバがブートを試行する順序を設定できます。レガシーのブート順の構成では、Cisco BMC 2.0によりデバイスタイプの並び替えが許可されますが、デバイスタイプ内のデバイスの並び替えはできません。高精度ブート順の設定により、デバイスの線形順序付けができます。Web UI または CLI では、ブート順およびブートモードの変更、各デバイスタイプ下への複数のデバイスの追加、ブート順の並び替え、各デバイスタイプのパラメータの設定ができます。

ブート順の構成を変更すると、Cisco BMC 2.0 そのサーバが次に再起動されるときに、構成されているブート順を BIOS に送信します。新しいブート順を実装するには、設定の変更後にサーバをリブートします。新しいブート順は以降のリブートで反映されます。構成されたブート順は、設定が以下または BIOS 設定で再度変更されるまで Cisco BMC 2.0 保持されます。



- (注) 次のいずれかの条件が発生すると、実際のブート順は設定されたブート順と異なります。
- 設定されたブート順を使用してブートしようとしたときに BIOS で問題が発生した。
  - ユーザが BIOS で直接、ブート順を変更した。
  - BIOS が、ホストによって認識されているがユーザーから設定されていないデバイスを追加した。

[現在のブート順序 (Current Boot Order) ]には、サーバが最後にブートされたときに BIOS によって実際に使用されたブート順序が表示されます。

## UEFI セキュア ブートの概要

オペレーティングシステムをロードし実行する前に、ロードおよび実行前のすべてのEFIドライバ、EFIアプリケーション、オプションROMまたはオペレーティングシステムが確実に署名され信頼性と整合性が確認されるために、Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) のセキュアブートを使用できます。UEFIのセキュアブートモードをイネーブルにすると、ブートモードはUEFIモードに設定され、UEFIのブートモードがディセーブルになるまで、設定されているブートモードを変更できません。



- (注) サポートされていない OS で UEFI セキュア ブートを有効にすると、次の再起動時に、その特定の OS から起動することはできません。前の OS から起動しようとする、Web UI のシステムソフトウェアイベントの下にエラーが報告され記録されます。前の OS から起動するには、UEFI セキュア ブート オプションをディセーブルにする必要があります。

表 19: サポートされる OS

OS	バージョン
Ubuntu サーバー	22.04
Ubuntu コア	24.04
RedHat 企業 Linux	9.4
RedHat 企業 Linux CoreOS	4.16
Rocky Linux	9.5

## ブート順の構成

### 手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインから、[コンピューティング] > [BIOS] をクリックします。
- ステップ 2** [All Blocks] ドロップダウンメニューを選択してレポートを選択し、結果の生成と表示を行います。ブート順序の設定 (Configure Boot Order) タブに表示されるフィールドとアイコンについて説明します。
- ステップ 3** 次の情報を確認できます。

名前	説明
UEFI セキュア ブート ドロップダウンリスト	[UEFI セキュア ブート (UEFI Secure Boot)] を無効にできます。
Boot Mode	現在のブートモードを表示します。
ワンタイムブートデバイスの設定 ドロップダウンリスト	必要なブートソースを選択できます。
ホストを即座にリブート チェックボックス	[ホストを即座にリブート (Reboot Host Immediately)] チェックボックスがオフの場合、サーバーはすぐに関機され、新しい BIOS 設定が有効になります。そうでない場合、変更内容はサーバーが手動でリブートされるまで保存されます。

名前	説明
現在のブート順 エリア リスト	現在のブート順序を表示します。
予測されるブート順 リスト	このリスト内の項目をドラッグすることで、コンポーネントのブート順序を並べ替えることができます。

ステップ4 登録手続きを開始するには、**変更の保存**。

## サーバーの実際のブート順の表示

### 手順

ステップ1 [Navigation] ペインから、[コンピューティング]>[BIOS]をクリックします。

ステップ2 [All Blocks] ドロップダウンメニューを選択してレポートを選択し、結果の生成と表示を行います。ブート順序の設定 (Configure Boot Order) タブに表示されるフィールドとアイコンについて説明します。

ステップ3 通常の [現在のブート順 エリア (Current Boot Order Area)] リストの下で、現在の実際のブート順序を確認できます。

## UEFI セキュア ブートの有効化または無効化

### 手順

ステップ1 [Navigation] ペインから、[コンピューティング]>[BIOS]をクリックします。

ステップ2 [All Blocks] ドロップダウンメニューを選択してレポートを選択し、結果の生成と表示を行います。ブート順序の設定 (Configure Boot Order) タブに表示されるフィールドとアイコンについて説明します。

ステップ3 [バーチャルアカウント (Virtual Account)] ドロップダウン リストから、**UEFI セキュア ブート** ドロップダウンリストから、**有効** または **ディセーブル**。

ステップ4 登録手続きを開始するには、**変更の保存**。

## 1 回限りのブート デバイスを使用してブートするサーバの設定

現在設定されているブート順序を乱さずに、次回のサーバブートに限り特定のデバイスから起動するように、サーバを設定できます。1 回限りのブート デバイスからサーバがブートしたら、その後のリブートはすべて以前に設定されていたブート順序で実行されます。

## 手順

- ステップ1 [Navigation] ペインから、[コンピューティング]>[BIOS]をクリックします。
- ステップ2 [All Blocks] ドロップダウンメニューを選択してレポートを選択し、結果の生成と表示を行います。ブート順序の設定 (Configure Boot Order) タブに表示されるフィールドとアイコンについて説明します。
- ステップ3 [バーチャルアカウント (Virtual Account)] ドロップダウンリストから、[構成済みのワンタイム ブート デバイス (Configured one time boot device)] ドロップダウンで、オプションを選択します。
- ステップ4 (任意) ※ ホストを即座にリブート チェックボックスをオンにします。
- ステップ5 登録手続きを開始するには、変更の保存。

## BIOS トークン

### I/O BIOS パラメータの構成



(注) 記載されている BIOS のパラメータは、サーバーによって異なります。

## 手順

- ステップ1 [Navigation] ペインから、[コンピューティング]>[BIOS]をクリックします。
- ステップ2 [All Blocks] ドロップダウンメニューを選択してレポートを選択し、結果の生成と表示を行います。[BIOS の設定 (Configure BIOS)] タブに表示されるフィールドとアイコンについて説明します。
- ステップ3 [All Blocks] ドロップダウンメニューを選択してレポートを選択し、結果の生成と表示を行います。I/O タブに表示されるフィールドとアイコンについて説明します。

次のトークンを表示または、アップデートすることができます：

BIOS トークン	説明
ホストを即座にリブート チェックボックス	[ホストを即座にリブート (Reboot Host Immediately)] チェックボックスがオフの場合、サーバーはすぐにリブートされ、新しいBIOS設定が有効になります。そうでない場合、変更内容はサーバーが手動でリブートされるまで保存されます。

BIOS トークン	説明
IPv4 PXEサポート ドロップダウンリスト	<p>PXE の IPv4 サポートを有効または無効にします。次のいずれかになります</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ディセーブル</b>：IPv4 PXE のサポートは利用できません。</li> <li>• <b>有効</b>：IPv4 PXE のサポートを常に利用できます。</li> </ul>
IPv4 HTTPサポート ドロップダウンリスト	<p>HTTP の IPv4 サポートを有効または無効にします。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ディセーブル</b>：IPv4 HTTP サポートは使用できません。</li> <li>• <b>有効</b>：IPv4 HTTP サポートを常に使用できます。</li> </ul>
IPv6 PXE サポート ドロップダウンリスト	<p>PXE の IPv6 サポートを有効または無効にします。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ディセーブル</b>：IPv6 PXE のサポートは利用できません。</li> <li>• <b>有効</b>：IPv6 PXE のサポートを常に利用できます。</li> </ul>
IPv6 HTTP サポート ドロップダウンリスト	<p>HTTP の IPv6 サポートを有効または無効にします。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ディセーブル</b>：IPv6 HTTP サポートは使用できません。</li> <li>• <b>有効</b>：IPv6 HTTP サポートを常に使用できます。</li> </ul>

BIOS トークン	説明
PCIE リンク スピード機能 ドロップダウンリスト	<p>PCIExpress インターフェイスが動作できる最大速度を決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Auto</b> : 接続されたデバイスの機能とシステム要件に基づいて、最適な PCI Express リンク速度を自動的に選択します。</li> <li>• <b>GEN1</b> : PCI Express リンクを第 1 世代の速度である 2.5 GT/s (1 秒あたりのギガの転送数) で動作するように設定します。</li> <li>• <b>GEN2</b> : PCI Express リンクを 5.0 GT/s の第 2 世代の速度で実行するように設定します。</li> <li>• <b>GEN3</b> : 第 3 世代 (8.0 GT/s) で PCI Express リンク速度を確立します。</li> <li>• <b>GEN4</b> : 16.0 GT/s の第 4 世代の速度で PCI Express リンクを動作します。</li> <li>• <b>GEN5</b> : PCI Express リンクを第 5 世代の速度 (32.0 GT/s) に設定し、リストされているオプションの中で最大の帯域幅を提供します。</li> </ul>
[SR-IOV のサポート (SR-IOV Support) ] ドロップダウンリスト	<p>SR-IOV 機能により、PCIe デバイスは複数の個別の物理 PCIe デバイスのように見えます。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ディセーブル</b> : SR-IOV 機能は無効です。</li> <li>• <b>有効</b> : SR-IOV 機能は有効です。</li> </ul>

ステップ 4 [Save]をクリックします。

## サーバ管理 BIOS パラメータの構成



(注) 記載されている BIOS のパラメータは、サーバーによって異なります。

### 手順

ステップ 1 [Navigation] ペインから、[コンピューティング]>[BIOS]をクリックします。

**ステップ 2** [All Blocks] ドロップダウンメニューを選択してレポートを選択し、結果の生成と表示を行います。[BIOS の設定 (Configure BIOS)] タブに表示されるフィールドとアイコンについて説明します。

**ステップ 3** [All Blocks] ドロップダウンメニューを選択してレポートを選択し、結果の生成と表示を行います。サーバー管理 タブに表示されるフィールドとアイコンについて説明します。

次のトークンを表示または、アップデートすることができます：

BIOS トークン	説明
ホストを即座にリブート チェックボックス	[ホストを即座にリブート (Reboot Host Immediately)] チェックボックスがオフの場合、サーバーはすぐにリブートされ、新しい BIOS 設定が有効になります。そうでない場合、変更内容はサーバーが手動でリブートされるまで保存されます。
コンソールリダイレクション (Console Redirection) ドロップダウンリスト	POST および BIOS のブート中に、シリアルポートをコンソールリダイレクションで使用できるようにします。OS 起動後は、コンソールのリダイレクトが関係なくなります。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>有効</b>：POST 中にコンソールリダイレクションをイネーブルにします。</li> <li>• <b>ディセーブル</b>：POST 中にコンソールリダイレクションは発生しません。</li> </ul>
[ターミナルタイプ (Terminal Type)] ドロップダウンリスト	コンソールリダイレクションに使用される文字フォーマットのタイプ。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>PC-ANSI</b>：PC-ANSI 端末フォントが使用されます。</li> <li>• <b>VT100</b>：サポートされている VT100 ビデオ端末とその文字セットが使用されます。</li> <li>• <b>VT100-PLUS</b>：サポートされている VT100-plus ビデオ端末とその文字セットが使用されます。</li> <li>• <b>VT-UTF8</b>：UTF-8 文字セットのビデオ端末が使用されます。</li> </ul>

BIOS トークン	説明
1秒あたりのビット数 ドロップダウンリスト	<p>この設定は、シリアル通信のデータ伝送速度（ビット/秒 (bps)）を決定します。これは、通信チャンネルを介してデータが送信および受信されるレートを定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 9600</li> <li>• 19200</li> <li>• 38400</li> <li>• 57600</li> <li>• 115200</li> <li>• 230400</li> <li>• 460800</li> <li>• 921600</li> </ul>
Flow Control ドロップダウンリスト	<p>フロー制御にハンドシェイクプロトコルを使用するかどうかを設定します。送信要求/クリア ツー センド (RTS/CTS) を使用すると、隠れた端末の問題が原因で発生する可能性がある、フレームコリジョンを減らすことができます。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• なし：フロー制御は使用されません。</li> <li>• ハードウェア RTS/CTS：RTS/CTS がフロー制御に使用されます。</li> </ul>
[FRB-2 タイマー (FRB-2 Timer) ] ドロップダウンリスト	<p>POST 中にシステムがハングした場合に、システムを回復するために FRB2 タイマーを使用するかどうかを設定します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ディセーブル：FRB2 タイマーは使用されません。</li> <li>• 有効：POST 中に FRB2 タイマーが開始され、必要に応じてシステムの回復に使用されます。</li> </ul>

BIOS トークン	説明
OS Watchdog Timer ドロップダウンリスト	<p>BIOS が指定されたタイムアウト値でウォッチドッグタイマーをプログラムするかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ディセーブル</b>：サーバのブートにかかる時間をトラッキングするためにウォッチドッグタイマーは使用されません。</li> <li>• <b>有効</b>：サーバのブートにかかる時間をウォッチドッグタイマーでトラッキングします。サーバのブートが [OS ブート ウォッチドッグタイマー タイムアウト (OS Boot Watchdog Timer Timeout) ] フィールドで指定された時間内に完了しない場合は、Cisco BMC によってエラーがログに記録され、[OS ブート ウォッチドッグポリシー (OS Boot Watchdog Policy) ] フィールドで指定されたアクションが実行されます。</li> </ul>
[OS WTD タイマー タイムアウト (OS Wtd Timer Timeout) ] フィールド	<p>OS が指定された時間内にブートしない場合、OS ウォッチドッグタイマーの期限が切れ、システムはタイマーポリシーに基づいてアクションを実行します。1 ~ 30 の整数を入力します。</p>
[OS Wtd タイマー ポリシー (OS Wtd Timer Policy) ] ドロップダウンリスト	<p>ウォッチドッグタイマーが切れた場合にシステムで実行されるアクション。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Do Nothing</b>：OS の起動中にウォッチドッグタイマーが期限切れになった場合、アクションは実行されません。これにより、システムは介入なしで現在の状態を継続できます。</li> <li>• <b>Reset</b>：OS のブート中にウォッチドッグタイマーが切れた場合、サーバーはリセットされます。</li> <li>• <b>Power Down</b>：OS のブート中にウォッチドッグタイマーの期限が切れた場合、サーバの電源がオフになります。</li> <li>• <b>Power Cycle</b>：OS のブート中にウォッチドッグタイマーが切れると、サーバの電源がオフになってからオンに戻り、システムを効果的にリブートして潜在的な問題に対処します。</li> </ul>

ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。

## セキュリティ BIOS パラメータの構成



(注) 記載されている BIOS のパラメータは、サーバーによって異なります。

### 手順

ステップ1 [Navigation] ペインから、[コンピューティング]>[BIOS]をクリックします。

ステップ2 [All Blocks] ドロップダウンメニューを選択してレポートを選択し、結果の生成と表示を行います。[BIOS の設定 (Configure BIOS)] タブに表示されるフィールドとアイコンについて説明します。

ステップ3 [All Blocks] ドロップダウンメニューを選択してレポートを選択し、結果の生成と表示を行います。セキュリティ タブに表示されるフィールドとアイコンについて説明します。

次のトークンを表示または、アップデートすることができます：

BIOS トークン	説明
ホストを即座にリブート チェックボックス	[ホストを即座にリブート (Reboot Host Immediately)] チェックボックスがオフの場合、サーバーはすぐにリブートされ、新しいBIOS設定が有効になります。そうでない場合、変更内容はサーバーが手動でリブートされるまで保存されます。
セキュリティデバイスのサポート ドロップダウンリスト	このオプションを使用すると、システムのセキュリティ デバイス サポートを制御できます。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ディセーブル</b>：このオプションは無効です。</li> <li>• <b>有効HTTP</b> サーバーは無効です。</li> </ul>

BIOS トークン	説明
[TPM State] ドロップダウンリスト	<p>この機能は、トラステッドプラットフォームモジュール (TPM) のステータスを制御します。TPM は、暗号キー用にセキュアなストレージを提供し、プラットフォーム整合性チェックを実行することによって、システムセキュリティを強化するために使用されるハードウェアベースのセキュリティデバイスです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>有効</b> : TPM をアクティブにして、キー管理やシステム整合性の確認などのセキュリティ機能を実行できるようにします。</li> <li>• <b>ディセーブル</b> : TPM を非アクティブ化し、セキュリティ関連のタスクを実行できないようにします。</li> </ul>
SHA256 PCRバンク ドロップダウンリスト	<p>SHA256 PCR バンクを有効または無効にします。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ディセーブル</b> : サーバーではこの機能が使用されません。</li> <li>• <b>有効</b> : サーバーはこの機能を使用します。</li> </ul>
SHA384 PCR バンク ドロップダウンリスト	<p>プラットフォーム構成レジスタ (PCR) は、TPM 内のメモリ位置です。複数の PCR をまとめて PCR バンクと呼びます。セキュア ハッシュ アルゴリズム 384 ビットまたは SHA-384PCR バンクでは、TPM セキュリティを有効または無効にすることができます。</p> <p>次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ディセーブル</b> : サーバーではこの機能が使用されません。</li> <li>• <b>有効</b> : サーバーはこの機能を使用します。</li> </ul>
保留中の操作 ドロップダウンリスト	<p>トラステッドプラットフォームモジュール (TPM) Pending Operation オプションを使用すると、保留中の操作のステータスを制御できます。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>なしアクション</b> はありません。</li> <li>• <b>TpmClear</b> 保留中の操作をクリアします。</li> </ul>

BIOS トークン	説明
[ランタイム変数のパスワード保護 (Password protection of Runtime Variables) ] ドロップダウンリスト	<p>この機能では、アクセスまたは変更パスワードを要求することで、ランタイム変数を保護します。操作中に重要な設定に対する不正な変更を防止することにより、システムセキュリティを強化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>有効</b> : ランタイム変数にアクセスして変更する場合パスワードを要求します。システム設定に対する不正な変更を防ぐためのセキュリティレイヤが追加されます。</li> <li>• <b>ディセーブル</b> : パスワードなしでランタイム変数にアクセスして変更できます。セキュリティについての問題があまりない環境に適している場合があります。</li> </ul>

ステップ 4 [保存 (Save) ] を [Save]。

## メモリ BIOS パラメータの構成



(注) 記載されている BIOS のパラメータは、サーバによって異なります。

### 手順

ステップ 1 [Navigation] ペインから、[コンピューティング] > [BIOS] をクリックします。

ステップ 2 次の [BIOS の構成 (Configure BIOS) ] タブを選択します。

ステップ 3 次の [I/O] タブを選択します。

次のトークンを表示または、アップデートすることができます：

BIOS トークン	説明
[ホストを即座にリブート (Reboot Host Immediately) ] チェックボックス	<p>がオフの場合、サーバはすぐにリブートされ、新しい BIOS 設定が有効になります。それ以外の場合は、サーバが手動でリブートされるまで変更は保存されます。</p>

BIOS トークン	説明
[SMEE] ドロップダウン リスト	<p>プロセッサで、メモリの暗号化サポートを実現する Secure Memory Encryption Enable (SMEE) 機能を使用するかどうかを指定します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [自動 (Auto)] : これらのアドレスのマッピング方法を CPU で決定します。</li> <li>• [無効 (Disabled)] : プロセッサで SMEE 機能を使用しません。</li> <li>• [有効 (Enabled)] : プロセッサで SMEE 機能を使用します。</li> </ul>
[SNP メモリ (RMP テーブル) カバレッジ (SNP Memory (RMP Table) Coverage)] ドロップダウン リスト ドロップダウン リスト	<p>SNP メモリ カバレッジを構成できます。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [自動 (Auto)] : システムがメモリ カバレッジを決定します。</li> <li>• [無効 (Disabled)] : プロセッサはこの機能を使用しません。</li> <li>• [有効 (Enabled)] : この機能は次を経由して有効になります。</li> <li>• [カスタム (Custom)] : カスタムサイズは、カバーする SNP メモリ サイズで定義できます。</li> </ul>
[L1 バーストプリフェッチモード (L1 Burst Prefetch Mode)] ドロップダウン リスト	<p>この設定は、レベル1 (L1) キャッシュのプリフェッチ動作を制御します。事前にデータをロードすることで処理効率を向上させることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [有効 (Enable)] : バーストプリフェッチをアクティブにします。データを L1 キャッシュにプリロードすることでパフォーマンスが向上する可能性があります。</li> <li>• [無効 (Disable)] : バーストプリフェッチを非アクティブにします。これによりパフォーマンスが低下する可能性があります。電力を節約し、不要なデータ取得を減らすことができます。</li> <li>• [自動 (Auto)] : システムのワークロードと条件に基づいて L1 バーストプリフェッチを自動的に管理し、パフォーマンスと効率を最適化します。</li> </ul>

BIOS トークン	説明
<p>[ソケットごとの NUMA ノード (NUMA nodes per socket) ] ドロップダウン リスト</p>	<p>ソケットごとにメモリ NUMA ドメインを構成できます。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [自動 (Auto) ] : チャンネル数を自動的に設定します。</li> <li>• [NPS0] : システムごとの NUMA ノード数を 1 にします。</li> <li>• [NPS1] : ソケットごとの NUMA ノード数を 1 にします。</li> <li>• [NPS2] : ソケットごとの NUMA ノード数を 2 にし、SoC の左半分と右半分に 1 つずつにします。</li> <li>• [NPS4] : ソケットごとの NUMA ノード数を 4 にし、クワドラントごとに 1 つにします。</li> </ul>
<p>[メモリ インターリーブ (Memory interleaving) ] ドロップダウン リスト</p>	<p>メモリ インターリーブを無効にできます。ソケットあたりの NUMA ノードは、この設定に関係なく適用されることに注意してください。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [自動 (Auto) ] : 機能を自動モードに設定します。</li> <li>• [有効 (Enabled) ] : この機能は次を経由して有効になります。</li> <li>• [無効 (Disabled) ] : サポートは無効になっています。</li> </ul>
<p>[チップ選択インターリーブ (Chipselect Interleaving) ] ドロップダウン リスト</p>	<p>ノード 0 に選択する DRAM チップ経由でメモリ ブロックがインターリーブされるかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [無効 (Disabled) ] : チップの選択は、メモリ コントローラ内でインターリーブされません。</li> <li>• [自動 (Auto) ] : CPU でチップセレクトのインターリーブの方法を自動的に決定します。</li> </ul>

BIOS トークン	説明
<p><b>[BankSwapMode]</b> ドロップダウン リスト</p>	<p>メモリバンクのスワップを制御して、パフォーマンスを最適化したり、特定のメモリ構成を管理したりできます。メモリアクセスパターンを改善したり、ハードウェア要件に適応したりするのに役立ちます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[自動 (Auto)]</b> : システム要件と機能に基づいて、最適なバンクスワップ構成が自動的に選択されます。</li> <li>• <b>[無効 (Disable)]</b> : バンク スワッピングを防止し、メモリバンク設定を変更せずに初期設定のままにします。</li> <li>• <b>[スワップCPU (Swap CPU)]</b> : CPUのパフォーマンスとアクセスパターンを最適化するように調整されたメモリ バンク スワップを有効にします。</li> </ul>
<p><b>[DRAM リフレッシュ レート (DRAM Refresh Rate)]</b> ] ドロップダウン リスト</p>	<p>この設定は、データの整合性を維持するために DRAMセルをリフレッシュする間隔を決定します。リフレッシュレートを低くするとパフォーマンスは向上しますが、消費電力が増加する可能性があります。一方、レートを高くするとデータ保持期間が長くなります。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>3.9 マイクロ秒</b></li> <li>• <b>1.95 マイクロ秒</b></li> </ul>

BIOS トークン	説明
<p><b>[DDR 修復 BIST (DDR Healing BIST) ]</b> ドロップダウンリスト</p>	<p>これは、DDR メモリ モジュール内のメモリ障害を特定して修復するために使用される診断ツールです。一連のセルフテストを実行することで、システムは障害のあるセルを検出して機能の復元を試みることができるため、メモリの信頼性とパフォーマンスが向上します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[無効 (Disabled) ]</b> : DDR 修復 BIST 機能を無効にし、メモリ診断テストが実行されないようにします。</li> <li>• <b>[PMU メモリ BIST (PMU Mem BIST) ]</b> : 障害検出のためにパフォーマンス モニタリング ユニットベースのメモリ組み込みセルフテストを有効にします。</li> <li>• <b>[自己修復メモリ BIST (Self-Healing Mem BIST) ]</b> : 自己修復機能をアクティブにして、メモリ障害を自動的に検出して修復します。</li> <li>• <b>[PMU および自己修復 Mem BIST (PMU and Self-Healing Mem BIST) ]</b> : PMU ベースのテストと自己修復テストを組み合わせ、包括的なメモリの診断と修復を行います。</li> </ul>
<p><b>[DRAM ブート時間ポストパッケージ修復 (DRAM Boot Time Post Package Repair) ]</b> ドロップダウンリスト</p>	<p>このオプションを使用すると、システムはブートプロセス中に DRAM で修復を試み、検出された障害を修正できます。これにより、メモリの整合性と信頼性が確保されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[有効 (Enabled) ]</b> : ブート時の修復プロセスをアクティブにして、システムが起動時にメモリの問題を特定して修正できるようにします。</li> <li>• <b>[無効 (Disabled) ]</b> : ブート時修復プロセスを無効にし、システム起動時の自動 DRAM 障害修正をスキップします。</li> </ul>
<p><b>ランタイム ポスト パッケージ修復</b> ドロップダウンリスト</p>	<p>これは、実行時にプロセッサのパッケージを修復するシステムの機能に関連する特定の構成の設定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[有効 (Enabled) ]</b> : プロセッサで機能を使用します。</li> <li>• <b>[無効 (Disabled) ]</b> : プロセッサで機能を使用しません。</li> </ul>

BIOS トークン	説明
[DRAMスクラブ時間 (DRAM Scrub Time)] ドロップダウンリスト	<p>値を選択して、メモリ全体をスクラブする時間を示します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [自動 (Auto)] : 機能を自動モードに設定します。</li> <li>• [無効 (Disabled)] : サポートは無効になっています。</li> <li>• 1 時間</li> <li>• 4 時間</li> <li>• 8 時間</li> <li>• 16 時間</li> <li>• 24 時間</li> <li>• 48 時間</li> </ul>
TSME ドロップダウンリスト	<p>透過的セキュアメモリ暗号化 (TSME) を有効にすることができます。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [自動 (Auto)] : 機能の使用は自動に設定されます。</li> <li>• [無効 (Disabled)] : プロセッサで TSME 機能を使用しません。</li> <li>• [有効 (Enabled)] : プロセッサで TSME 機能を使用します。</li> </ul>
[SEV-SNP サポート (SEV-SNP Support)] ドロップダウンリスト	<p>セキュア ネスティッド ページング機能を有効にできます。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [無効 (Disabled)] : プロセッサで SEV-SNP 機能を使用しません。</li> <li>• [有効 (Enabled)] : プロセッサで SEV-SNP 機能を使用します。</li> <li>• [自動 (Auto)] : システムの機能と要件に基づいて SEV-SNP 機能を自動的に有効にし、手動で構成することなく仮想マシンのセキュリティを最適化します。</li> </ul>

BIOS トークン	説明
<p><b>[IOMMU]</b> ドロップダウンリスト</p>	<p>出入力メモリ管理ユニット (IOMMU) により、AMD プロセッサが物理アドレスへ仮想アドレスをマッピングすることが可能です。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[自動 (Auto)]</b> : これらのアドレスのマッピング方法を CPU で決定します。</li> <li>• <b>[無効 (Disabled)]</b> : IOMMU は使用されません。</li> <li>• <b>[有効 (Enabled)]</b> : IOMMU によりアドレスマッピングを行います。</li> </ul>
<p><b>[4G 以上の復号 (Above 4G Decoding)]</b> ドロップダウンリスト</p>	<p>4GB を超える MMIO を有効もしくは無効にします。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[無効 (Disabled)]</b> : サーバでは 64 ビット PCI デバイスの I/O を 4 GB 以上のアドレス空間にマッピングしません。</li> <li>• <b>[有効 (Enabled)]</b> : サーバで 64 ビット PCI デバイスの I/O を 4 GB 以上のアドレス空間にマッピングします。PCI デバイスが 64 ビット対応でも、レガシーなオプション ROM を使用する場合は、この設定を有効にしても正しく機能しない場合があることに注意してください。</li> </ul>
<p><b>[BME DMA 緩和 (BME DMA Mitigation)]</b> ドロップダウンリスト</p>	<p>不正な外部 DMA からの脅威を緩和する PCI BME ビットを無効にできます。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[無効 (Disabled)]</b> : PCI BME ビットは BIOS で無効になっています。</li> <li>• <b>[有効 (Enabled)]</b> : PCI BME ビットは BIOS で有効になっています。</li> </ul>

ステップ 4 **[保存 (Save)]** をクリックします。

## プロセッサの BIOS パラメータの構成



(注) 記載されている BIOS のパラメータは、サーバーによって異なります。

### 手順

ステップ1 [Navigation] ペインから、[コンピューティング]>[BIOS]をクリックします。

ステップ2 以下の [BIOS の構成 (Configure BIOS)] タブを選択します。

ステップ3 以下の [電源/パフォーマンス (Power/Performance)] タブを選択します。

次のトークンを表示またはアップデートすることができます：

BIOS トークン	説明
ホストを即座にリブート チェックボックス	[ホストを即座にリブート (Reboot Host Immediately)] チェックボックスがオフの場合、サーバーはすぐにはリブートされ、新しい BIOS 設定が有効になります。そうでない場合、変更内容はサーバーが手動でリブートされるまで保存されます。
[SVM モード (SMT Mode)] ドロップダウン リスト	プロセッサが AMD セキュア仮想マシンテクノロジーを使用するかどうか。次のいずれかを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ディセーブル (Disabled)] : プロセッサで SVM テクノロジーを使用しません。</li> <li>• [有効 (Enabled)] : プロセッサで SVM テクノロジーを使用します。</li> </ul>
ストリーミングストア制御 ドロップダウン リスト	ストリーミングストア機能を有効にします。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [自動 (Auto)] : 自動モードに設定します。</li> <li>• [ディセーブル (Disabled)] 機能が無効になっています。</li> <li>• [有効 (Enabled)] : 機能が有効になっています。</li> </ul>

BIOS トークン	説明
ローカルAPICモード ドロップダウン リスト	<p>この機能は、CPU内の割り込みのシグナリングと優先順位付けを管理するローカルの高度なプログラマブル割り込みコントローラ (APIC) のモードを構成します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[自動 (Auto)]</b> : 自動モードに設定します。</li> <li>• <b>[XAPIC]</b> : XAPIC モードに設定します。</li> <li>• <b>[X2APIC]</b> : X2APIC モードに設定します。</li> </ul>
<b>[AVX512]</b> ドロップダウン リスト	<p>AVX512 BIOS 設定は、AVX512 命令セット拡張の使用を有効または無効にします。これは、特定の Intel® プロセッサで使用される高度なベクトル拡張であり、重い計算タスクのパフォーマンスを向上させます。</p> <p>この設定を調整すると、一部のソフトウェアとの互換性と安定性に影響を与え、CPUの電力消費と発熱量に影響を与える可能性があります。</p> <p>AVX512 を有効または無効化にします。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[自動 (Auto)]</b> : 自動モードに設定します。</li> <li>• <b>[ディセーブル (Disabled)]</b> 機能が無効になっています。</li> <li>• <b>[有効 (Enabled)]</b> : 機能が有効になっています。</li> </ul>
<b>[DownCore]</b> ドロップダウン リスト	<p>アクティブなプロセッサコアの数を設定して、ワークロードの要件に従ってパフォーマンスと電力消費を最適化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[有効化オプション (Enablement Option)]</b> : アクティブコアの事前定義された構成から選択でき、特定のパフォーマンスまたは電力の目標に合わせてコアの使用を最適化するプロセスを簡素化します。</li> <li>• <b>[ビットマップ (Bitmap)]</b> : ビットマップを介してアクティブコアのカスタム選択を可能にし、カスタマイズされたパフォーマンスチューニングのためにコアを有効または無効にする正確な制御を提供します。</li> </ul>

BIOS トークン	説明
[SMT 制御 (SMT Control)] ドロップダウンリスト	<p>プロセッサで AMD Simultaneous MultiThreading テクノロジーを使用するかどうかを指定します。このテクノロジーでは、マルチスレッドソフトウェアアプリケーションのスレッドを各プロセッサ内で並列に実行できます。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [自動 (Auto)] : プロセッサは、マルチスレッドの並列実行を許可します。</li> <li>• [ディセーブル (Disabled)] : プロセッサで SMT モードを使用しません。</li> <li>• [有効 (Enabled)] : プロセッサで SMT モードを使用します。</li> </ul>
[CCD 制御 (CCD Control)] ドロップダウンリスト	<p>システムで有効にしたい CCD の数を指定できます。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [自動 (Auto)] : プロセッサによって提供される最大数の CCD が有効になります。</li> <li>• 2 CCD</li> <li>• 3 CCD</li> <li>• 4 CCD</li> <li>• 6 CCD</li> </ul>
NUMA ドメインとしての ACPI SRAT L3 キャッシュ ドロップダウンリスト	<p>各 CCX がそのオン ドメインにあると宣言されている物理ドメインの上に仮想ドメインのレイヤーを作成します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [自動 (Auto)] : 自動モードに設定します。</li> <li>• [ディセーブル (Disabled)] : ドメイン構成に NPS 設定を使用します。</li> <li>• [有効 (Enabled)] : 各 CCX を独自のドメインにあると宣言します。</li> </ul>

BIOS トークン	説明
[3リンク xGMI 最大速度 (3-link xGMI max speed) ] ドロップダウン リスト	このオプションは、18 Gbps XGMI リンク速度を有効にします。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [自動 (Auto) ] : 自動モードに設定します。</li> <li>• 20 Gbps : 20Gbps に設定します。</li> <li>• 25 Gbps : 25Gbps に設定します。</li> <li>• 32 Gbps : 32Gbps に設定します。</li> </ul>
[パワー ダウンの有効化 (Power Down Enable) ] ドロップダウン リスト	この設定は、システムがアイドル状態のとき、または使用率が低いときにメモリ (RAM) を低電力状態にするかどうかを制御します。通常、この設定を有効にすると、RAM の電力消費が少なくなり、エネルギーが節約され、発熱量が減少する可能性があります。無効にすると、RAM の電力が完全に維持され、ウェイクアップ時間が短縮される可能性があります。電力消費は高くなります。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [自動 (Auto) ] : 自動モードに設定します。</li> <li>• [ディセーブル (Disabled) ]機能が無効になっています。</li> <li>• [有効 (Enabled) ] : 機能が有効になっています。</li> </ul>
[APBDIS] ドロップダウン リスト	SMU の APB 無効化の値を選択できます。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 : SMU への ApbDis をクリアします</li> <li>• 1 : SMU への ApbDis を設定します。</li> <li>• [自動 (Auto) ] : CPU が値を判断します。</li> </ul>

ステップ 4 [保存 (Save) ]をクリックします。

## 電源とパフォーマンスの BIOS パラメータの構成



(注) 記載されている BIOS のパラメータは、サーバーによって異なります。

## 手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインから、[コンピューティング]>[BIOS]をクリックします。
- ステップ 2 [All Blocks] ドロップダウンメニューを選択してレポートを選択し、結果の生成と表示を行います。[BIOS の設定 (Configure BIOS)] タブに表示されるフィールドとアイコンについて説明します。
- ステップ 3 [All Blocks] ドロップダウンメニューを選択してレポートを選択し、結果の生成と表示を行います。電源/パフォーマンス タブに表示されるフィールドとアイコンについて説明します。

次のトークンを表示または、アップデートすることができます：

BIOS トークン	説明
[ホストを即座にリブート] チェックボックス	[ホストを即座にリブート (Reboot Host Immediately)] チェックボックスがオフの場合、サーバーはすぐにリブートされ、新しい BIOS 設定が有効になります。そうでない場合、変更内容はサーバーが手動でリブートされるまで保存されます。
[コア パフォーマンス ブースト (Core Performance Boost)] ドロップダウンリスト	AMD プロセッサがアイドル状態 (ほとんど使用されていない状態) のときにコアの周波数を上げるかどうかを指定します。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [自動 (Auto)] : パフォーマンスをブーストする方法を CPU で自動的に決定します。</li> <li>• [ディセーブル (Disabled)] : CPU により自動的にブーストパフォーマンスが決定されます。</li> </ul>
[グローバル C-State 制御 (Global C-state Control)] ドロップダウンリスト	AMD プロセッサが IO ベースの C ステートおよび DFC ステートを制御するかどうかに関係なく、これは次のうちいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [自動 (Auto)] : CPU で IO ベースの C ステートの生成方法を自動的に決定します。</li> <li>• [ディセーブル (Disabled)] : グローバル C ステートの制御が無効になります。</li> <li>• [イネーブル (Enabled)] : グローバル C ステートの制御が有効になります。</li> </ul>

BIOS トークン	説明
<p><b>[L1 Stream HW Prefetcher]</b> ドロップダウンリスト</p>	<p>プロセッサで、AMD ハードウェア プリフェッチャが必要に応じてデータおよび命令ストリームをメモリから取得し、L1 キャッシュに入れることを許可するかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[自動 (Auto)]</b> : CPU は、I/O デバイスからプロセッサ キャッシュにデータを配置する方法を決定します。</li> <li>• <b>[ディセーブル (Disabled)]</b> : ハードウェア プリフェッチャは使用しません。</li> <li>• <b>[イネーブル (Enabled)]</b> : プロセッサで、キャッシュの問題が検出されたときにプリフェッチャを使用します。</li> </ul>
<p><b>[L2 Stream HW Prefetcher]</b> ドロップダウンリスト</p>	<p>プロセッサで、AMD ハードウェア プリフェッチャが必要に応じてメモリからデータおよび命令ストリームを取得し、L2 キャッシュに入れることを許可するかどうかを指定します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[自動 (Auto)]</b> : CPU は、I/O デバイスからプロセッサ キャッシュにデータを配置する方法を決定します。</li> <li>• <b>[ディセーブル (Disabled)]</b> : ハードウェア プリフェッチャは使用しません。</li> <li>• <b>[イネーブル (Enabled)]</b> : プロセッサで、キャッシュの問題が検出されたときにプリフェッチャを使用します。</li> </ul>
<p><b>決定論の有効化</b> ドロップダウンリスト</p>	<p>この機能により、システムはリソース割り当てとパフォーマンス特性を管理して、選択したモードに基づいて一貫した結果を達成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[電力 (Power)]</b> : 予測可能なパフォーマンスレベルを維持しながら、電力効率を優先するようにシステムを最適化します。</li> <li>• <b>[パフォーマンス (Performance)]</b> : パフォーマンスの一貫性を最大化するようにシステムを設定します。ただし、消費電力は高くなりますが、</li> </ul>

ステップ4 [保存 (Save) ]をクリックします。

## 電力ポリシーの設定

### 電力制限

電力制限によって、サーバーの電力消費をアクティブに管理する方法が決定されます。パワーキャッピングオプションを有効にすると、システムにより電力消費がモニタされ、割り当てられている電力制限を超えないように電力が維持されます。サーバが電力制限を維持できない場合、またはプラットフォームの電力を修正時間内に指定の電力制限に戻すことができない場合、[電力プロファイル (Power Profile) ]領域の[アクション (Action) ]フィールドに指定したアクションがパワー キャッピングにより実行されます。



(注) 電力制限は CPU にのみ適用されます。メモリやストレージなどの他のサーバコンポーネントは、パワー キャッピングの範囲に含まれません。

## CPU 電力制限の有効化

### 手順

ステップ1 [Navigation] ペインから、システム > 電源管理をクリックします。

ステップ2 通常の 電力制限値(単位: ワット)で、必要な電力制限値をワット単位で入力します。

値が最小キャップ制限と最大キャップ制限の間にあることを確認します。

ステップ3 [保存 (Save) ]を [Save] クリックして電源制限設定を適用します。

## CPU 電力構成の表示

### 手順

ステップ1 [Navigation] ペインから、システム > 電源管理をクリックします。

ステップ2 次のプロパティを表示することができます：

名前	説明
[名前 (Name) ] column	コンポーネントまたはデバイスを識別します。
消費電力 column	現在の電力の使用状況を表示します。
電力制限 column	コンポーネントに設定されている最大電力制限を示します。
下限 column	最小許容電力制限を表示します。
上限 column	最大許容電力制限を表示します。

## 電力復元ポリシーの構成

### 手順

**ステップ 1** [Navigation] ペインから、[コンピューティング]>[電力復元ポリシー]をクリックします。

**ステップ 2** リスト **電源復旧ポリシー** エリアをクリックして適切な値を選択します。

- **常時稼働**：電源喪失前の状態に関係なく、電源が投入されるたびにシステムの電源が自動的にオンになります。このオプションを使用すると、電力が供給可能になるとすぐにサーバが動作を再開します。
- **常にオフ**：以前の状態に関係なく、電源が入っている場合、システムの電源はオフのままです。このオプションでは、電源喪失後にシステムの電源をオンにするために手動による介入が必要です。
- **最終の状態**：電源を入れると、システムは以前の電源状態を復元します。電源を失う前にシステムの電源がオンになっていた場合は、電源をオンにします。電源がオフになっている場合は、電源がオフのままになります。

**ステップ 3** 登録手続きを開始するには、**設定の保存**。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。